

第5学年 国語科学習指導案

1組 計38人（男子23人、女子15人）

指導者 久 永 浩 幸

海 江 田 広 美

1 単 元 「目的に応じた伝え方を考えよう」

（教材「ニュース番組作りの現場から」、「工夫して発信しよう」光村5年下）

2 単元について

（1）単元の価値

本学級の子どもたちは、これまでに情報発信という立場から、情報収集、情報選択の仕方を考えたり、伝えたいことを明確にして書いたりする活動をしてきている。

そこでここでは、ニュース番組製作について書かれた文章から、発信に至る一連の流れを読み取り、自らの情報を意図がよりよく伝わるように編集して発信しようとする態度を育てることをねらいとした単元を設定した。

教材「ニュース番組作りの現場から」は、ニュース番組の特集の作り方についてまとめた説明的な文章である。時系列に沿って、報道スタッフの役割や情報収集、編集会議のあり方、伝えたい内容の絞り込み方などが分かりやすく整理されている。また、自らの情報を発信する次教材「工夫して発信しよう」の具体的な活動マニュアル的な役割も担っており、困ったとき、適宜この内容に立ち返らせることもできる。さらに、本学年は社会科や総合的な学習の時間において、新聞やインターネット上の公開など、情報を編集してから発信する必要がある場面が多く、他教科との関連を図る上でも適した教材であると考ええる。

本単元で子どもたちは、教材文を時系列に沿って読み取るだけでなく、情報を編集して発信する一連の流れを自分のマニュアルとして構築することができる。また、友達と交互に受信者や発信者になり感想を交流し合うことで、目的や相手を意識した効果的な方法を考えることができる。さらに、発信の活動を通して、情報には発信者の意図や願いがあることに気付く、今後の受信者生活をより主体的・双方向的にしていけることができるようになることを考える。

ここでの学習は、今後、社会科や総合的な学習での情報発信活動に生かし、編集マニュアルの定着を具体的に図っていく。また、その中で、社会科で学ぶ情報の真偽の見分け、情報モラルの大切さなどを含め、総合的に情報活用能力を育成できるようにしていく。

（2）単元の目標

- | | |
|--|-------------------|
| ○ 「伝えたい」という願いをもちながら、「分かりやすく」伝えるために、情報を編集したり、伝え方を工夫したりしようとしている。 | 【国語への関心・意欲・態度】 |
| ○ 集めた材料を、目的に合わせて整理し、効果的に配列しながら書くことができる。 | 【書く能力】 |
| ○ 自分たちが番組を作るために必要な事柄を時系列に沿って段落ごとに読み取ったり、要旨をとらえたりすることができる。 | 【読む能力】 |
| ○ 語句の構成（複合語）についての理解を深めることができる。 | 【言語についての知識・理解・技能】 |

（3）子どもの実態

ア 教科全般に関する実態

本学級の子どもたちは、これまでの学習の中で、絵や図を見ながら要約された内容を説明することができるようになってきている。また、登場人物と自分を比べながら、そのときの気持ちを読み取ることもできるようになってきている。音読についても、部分暗唱を取り入れることで、だいぶ読む速さも速くなってきた。ただ、個人差がかなりあり、個別指導の必要な子どもがかなりいる。話し合い活動では、自分の考えをまとめてから行えば意見が言えるようになってきた。しかし、言い放しになることも多く、友達の意見から議論を広げたり、友達の考えを自分の中に取り入れて深めたりするところまでは至っていない。そのため、話し合いマニュアル等を使って司会ができるようにしたり、話し合いの形式に慣れさせたりしてきている。

イ 本単元の内容に関わる実態

- | |
|---|
| ① ニュースを入手する手段 |
| テレビ 36人 新聞 1人 ラジオ 0人 インターネット 1人 |
| ② 新聞を読む頻度(読書生活) |
| よくある 9人 ときどきある 14人 そんなときもある 12人 まずない 3人 |
| ③ 興味をもって視聴するニュースの種類(複数回答可) |
| 事件・事故 16人 スポーツ 15人 芸能 13人 政治・経済 11人 |
| 全国の出来事 8人 災害・気象 7人 科学 6人 地域の出来事 5人 |
| ④ ニュースを紹介するときの伝えるべきことについての理解 |
| いつ 21人 どこで 15人 だれが 5人 何を 5人 どうした 1人 |
| 一番大切なこと 5人 情報の入手先 1人 |
| ⑤ 桜島の災害対策についての知識(本単元内容と関連する事例) |
| 内容を理解している 13人 よく覚えていない 25人 |

本学級の子どもたちは、社会科や総合的な学習の時間などで情報を集め、新聞にまとめる経験はある程度しているため、情報収集や情報発信を意欲的に行う子どもが多い。また、情報の興味・関心は身近なことから社会全般に広がり、その大部分がテレビの視聴によるものになっている。興味をもって視聴する情報の種類については、事件・事故、スポーツ、芸能、政治・経済が多いが、複数回答する子どもが多くなっており、対象の広がりが見られ始めている。ただ、情報発信については、「いつ」「どこで」起こったことなのかということ以外は意識が低いため、伝えるべきことのいくつかは抜け、相手に十分伝わらないことも予想される。

本教材に出てくる災害避難訓練に関しては、3年生の時に、桜島の避難訓練に参加しているため抵抗なく読み取れる子どもが多いと考えるが、これまで大きな噴火や灰の被害を経験してきていないため、切実感までは感じておらず、災害対策についての知識は十分とは言えない。

読書に関する実態としては、社会科や総合的な学習の際、課題を解決するために図書館の本を使うことが多いため、関連図書を選択して読むという調べ読みの仕方は身に付いてきている。ただ、新聞については、テレビに比べ、情報収集の手段として日常化が図られるまでは高まっていない子どもが多い。

3 指導に当たって

本単元では、子ども一人一人が学ぶことを楽しむことができるように、以下の点に留意して指導する。

「つかむ」過程では、テレビ局の放送原稿とその実際の映像を提示し、ニュースを作り、発信することのおもしろさを感じられるようにする。また、「報道! 5-1」という番組設定で、学校放送を使って作品を紹介することを伝え、単元への意欲が高められるようにする。

「深める」過程では、自分たちの番組作成のマニュアルを作るためという目的意識をもたせることで、教材「ニュース番組作りの現場から」を意欲的に読み取ることができるようにする。その際、大切なことを落とさないようにするため、時系列に沿って読み取れるようなワークシートを準備する。また、交流によって読みが深まっていくように、個人でまとめる段階、全体で修正する段階、できたマニュアルを実際の報道番組と照らし合わせて確認する段階の3段階を踏んで読み進めることができるようにする。

「味わう・高める」過程では、自ら取材やインタビューをして集めた情報を選択、配列、加工する編集作業を行う。ここでは、「分量と時間」という条件を提示することで、グループでの話し合いがより活発に、そして、より具体的になっていくようにする。その際、教材「ニュース番組作りの現場から」で作成したマニュアルを使って企画、編集会議を行うことになるが、困ったときには随時教材文を読み返すように助言する。また、原稿作りでは、事実と意見を区別し、分かりやすく書けるように、読みの抵抗の少ない「子ども新聞」の記事を配布し、参考にできるようにする。

「まとめる・広げる」過程では、各グループの発表をもとに修正し合い、番組を作り上げ、数回にわたり給食時間に校内放送で紹介できるようにする。

4 指導計画(全14時間)

●は研究の視点に関する内容(①は視点1, ②は視点2) []は評価項目及び評価方法

過程	時間	主 な 学 習 活 動	教 師 の 指 導
つ	2	1 テレビ局の放送原稿とその実際の映像を視聴し, 感想を話し合う。 2 教材文「ニュース番組作りの現場から」の範読を聞き, 感想をまとめる。 3 「報道! 5-1」を紹介するまでの学習計画を立てる。 番組作りのマニュアルを作成し, 「報道! 5-1」を全校に放送しよう。	① テレビ局の放送原稿とその実際の映像を提示し, ニュース番組を作ることへの興味をもてるようにする。 ① 「報道! 5-1」という番組設定で, 学校放送を使い, できた作品を紹介することを伝え, 目的意識がもてるようにする。 ○ 番組作りのマニュアルを作るために, 教材文から大切なところを見つけ出す必要があることに気付かせる。
か	9 (本時4/9)	4 計画に沿って, 「ニュース番組作りの現場から」を読み取る。 ・ 通読によって個人でまとめる。 ・ 精読によって全体で修正する。 話題選び・企画会議・取材 企画会議・撮影・編集 原稿・放送 ・ できたマニュアルを実際の報道番組と照らし合わせる。 ・ 要旨を考える。 5 発信するニュースを作成する。 ・ テーマについて話し合い, 役割分担をする。 ・ 取材をし, 材料を集める。 ・ 編集会議を開き, 発表原稿や図・表などを準備する。 ・ 「分量と時間」の条件で編集して仕上げる。	② 時系列と見出しによってまとめることができるワークシートを個に応じて2種類準備することで, できるだけ自分の力でマニュアルを作ることができるようにする。 ○ 「本教材以外の内容にも当てはまること」という視点を与えることで, 大事なことを読み取ることができるようにする。 自分たちが番組を作るために必要な事柄を, 時系列に沿って段落ごとに読み取っている。(ワークシート) 【読む能力】 語句の構成(複合語)についての理解を深めることができる。(複合語集め) 【言語についての知識・理解・技能】 集めた材料を, 目的に合わせて整理し, 効果的に配列しながら書いている。(ワークシート) 【書く能力】 ○ 分量と時間という条件を与えることで, 伝えたいことを重点化して編集する必要性を感じるようにする。
深	2	6 ニュースを番組にし, 発信する。 ・ 本番の練習をし, 各グループの録画撮りを行う。 ・ 各グループの番組を視聴し, 相互評価を行う。 ・ 各グループの番組を校内放送で紹介する。(給食時間)	○ 作ったマニュアルに沿って, 情報を編集したり, 伝え方を工夫したりしようとしている。(録画撮り) 【国語への関心・意欲・態度】 ○ 相互評価の観点を子どもの話し合いで決めてから番組を視聴することで, 主体的な発信と受信ができるようにする。
め	1	7 6年生に感想をまとめてもらい, 発信者の意図がうまく伝わったか確認する。 8 情報の発信や受信について話し合う。 9 振り返りカードで自己評価する。	② 校内放送で紹介することで, 学習の達成感を味わうことができるようにする。 ○ 知りたいことであつたか, 知って欲しいという願いが伝わったか, 分かりやすい内容構成や発表の仕方であつたかななどを6年生に評価してもらうことで, 客観的に成果と課題をつかむことができるようにする。
る			
高			
味			
わ			
め			
う			
る			
ま			
広			
と			
げ			
め			
る			

5 本 時 (6 / 14)

- (1) 目 標 実際の報道番組を視聴し、番組作りの願いや工夫を探ることで、教材文の要旨をまとめることができる。
 (2) 展 開 教師の言葉かけ 予想される子どもの反応 重点評価項目 ◆重点評価項目を受けての指導
 ●は、研究の視点に基づく指導・支援 (①は視点1, ②は視点2)

過程(分)	主 な 学 習 活 動 と 予 想 さ れ る 子 ど も の 反 応	教 師 の 指 導
つ か む (5)	1 前時までで完成した番組作りマニュアルの内容を確認する。 (番組ができるまでには多くの仕事があったよ) (短い時間で相手に十分伝わるようにするために、いろいろな工夫や努力をしていたよ)	① 自分たちの番組作成のためのマニュアル作りであったことを確認し、これで番組が作れそうか、考えることができるようにする。 ○ なぜこんな工夫や努力をするのかという視点を与えることで、情報発信側の立場に立って考えられるようにする。
深 め る (25)	2 学習課題について話し合う。 (報道番組を作る人は、どんな願いをこめて作り、それが伝わるようにどんな工夫をしているのだろう。) 3 実際に放映された報道番組を視聴し、そのよさをワークシートにまとめる。 (伝えたいことが見ている人に伝わるように、工夫しているところを見つけてみよう。) (確かに相手に伝わりやすいような工夫がしてあるなあ) 4 視聴した報道番組を作った人の願いや工夫について話し合う。(グループ、全体) (見て分かるような撮影をしているよ。) (長い時間撮影していたのに、かなり短い放映時間だ。) (アナウンサーの話が分かりやすいのは、一文が短く、言葉を選んでいるからだと思うよ。)	① 作ったマニュアルの妥当性を検証するために、実際の報道番組を準備する。 ○ ニュース番組は5分程度の身近なものを選び、「内容」に関心をもたせながら、より「つくり」に着目できるようにする。 ② 実際の報道番組のよさが書き込めるようなワークシートを準備する。 また、実態に応じて書けるように、2種類準備しておく。
高 味 め わ る う (10)	5 話し合ったことを筆者のまとめの部分と比べながら読み、要旨をまとめる。 (伝えたいと思う気持ちをずっともち続けることが大切だね。) (取材をしっかりして正確な情報をもつことも大切だよ。) (相手に分かりやすく伝えるにはどうしたらいいかを考えて作ることも大切だね。)	◆ 自分なりの考えをもって話し合いができて いる子ども → 自分の考えを言うだけでなく、友達 の考えをワークシートにメモし、自 分の考えと比べながら聞くことが できるようにする。 ◆ 自分の考えをうまく伝えられ ない子ども → 特別支援の教師と分担しながら、 映像を再度見せたり、考えを聞き ながら引き出したりする。
ま 広 と げ め る (5)	6 新聞の番組欄の中から、今日あるニュース番組で見たい番組を発表する。 (何を伝えたいのか考えながら見たいなあ。) (インタビューの仕方や撮影の仕方をよく見てみたいなあ。)	○ 実際の番組での工夫や願いが、教材文のまとめの部分と共通していることに気付くようにし、結果的に要旨をまとめることができるようにする。 ① 見たい番組を決め、主体的に家庭で視聴することができるようにすることで、今後の番組作りに生かしていこうとする意欲を高める。